

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25021

「学ぶ力」	
実 態	課 題
◇学習に対して前向きな気持ちで取り組む子や意欲の高まった子が増え、自分の目標や課題に向かって学び続ける姿が見えてきた。 ◇自分の思いや考えを伝えたいという子が多くなってきた。また、子どもが主体となって学びを進めることを意識した授業構成や評価・見取りの工夫も増やすことができた。 ◇児童にチェックシートで西北スタンダードの観点をチェックさせ、担任が学級の実態を把握したのち授業改善、学級経営を行った。学びのサポーターと児童理解を共有した。	◇児童全員に「もっと〇〇するには…」 「どうして〇〇なんだろう？」と課題探究を支える課題意識・問題意識の思いをもたせるような単元構成や導入の工夫をする。 ◇交流の中で、学級の仲間の考えを聞いて、「分かった」「こんな考えもあるのか!」と自分と比べたり取り入れたりして、思考を再構築する場を意図的に設定していく。 ◇実態の変化や学力傾向の把握など、児童理解をしっかりと行い、個による自主的な学びと協働的な学びの力の育成に努めていく。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目に関わり、自己有用感が高まる授業の構築に努めている。主体的に判断することや、自ら課題を見だし、その解決を目指す過程で他者と協働しながら新たな価値を創り出していくことが求められる。子ども一人一人の主体性を大切にしながら多様な学びの中で、協働を通して磨かれながら、子どもが自らをアップデートできることを大切にしていける必要がある。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自分ごととしてとらえ、楽しみながら進んで学びに向かう力	
取 組	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
◇校内研究テーマ「伝え合いを通して深まる子ども」の実現 →子どもが自分ごととして学びを捉え、対話によって思考を再構築できる授業を実践し、自ら学びを進める姿勢を育む。 →自己決定・試行錯誤ができる個別探究の場を充実 →考えの練り合いがあり、見方・考え方が多様化・多角化される協働的な学び合いの場を充実 ◇主体的に学びに向かう姿につながる「振り返り」の充実 ◇「西北スタンダード」として、「話す・聞く・書く」の基本的学び方を設定・共通理解	◇多様な見方・考え方により主体的・協力的に臨む姿勢の支持・支援 →学習や行事、児童活動・学級活動を通じて育む ～『プラスのまほう』に込められた願いを共有しながら～ ・「子どもの意思の尊重」・「子どもたちでの問題解決の支援」 ・「子どもの臨み方を認め、褒め、支持する」 ◇小中一貫した教育グランドデザインの実現の推進 →ほほえみあう西岡の子ども～つたわるあいさつ～ ・児童会書記局を中心とした自治的な活動の推進 ・西岡北中学生徒会や西岡小児童会との情報交流と活動報告
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇ICTの活用目標と年間指導計画を学年ごとに設定し、児童がスムーズにツールを選択して活用できるようにする。 ◇日常の実践交流を通して、教員間でのICT活用の手立ての共有を図る機会を設定する。	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	【一人一人の教職員】	【学校全体】	次年度へ
◇本プログラムの周知 ・校内研究全体会① ・パートナー校間「研修」	◇日常の授業・教育活動 ・学年研修 ◇札幌教研・教職経験者研修・各自の研修(研究団体・オンライン)	◇実践交流・校内研修会 ◇日常実践の交流会	◇成果と課題の共有 ・校内研究全体会② ・パートナー校間「振り返り」

